

宮古市少年少女 発明クラブ便り

宮古市職業訓練センター内
宮古市少年少女発明クラブ
発行 No.1
2016.06.04

岩手日報

2016年(平成28年)4月25日(月曜日)

地域(22)

目指せ未来の発明家

宮古市少年少女発明クラブ(田崎豊義会長)は24日、同市長町の宮古職業訓練協会で開設式と第1期生の開講式を開いた。県北、沿岸部の同クラブ開設は初。子どもたちの知的好奇心を刺激し、科学やものづくりへの興味と関心を広げる場として、多彩な活動が期待される。

宮古市少年少女クラブ発足

県北、沿岸部で初開設 月数回、科学工作に挑戦



折り鶴を例にもものづくりの楽しさを伝える田崎豊義会長(左)の話を真剣に聞く第1期生の子どもたち

小学1〜6年生13人と保護者らが出席した。田崎会長は「友達の良い言葉を褒めるのは発明や発見に一番大切なこと」と心構えを説いた

上で「1羽の折り方が分かれば、アイデアを広げていろいろな鶴を作ることができると大小さまざまな折り鶴を紹介。子どもたちは造形の妙に驚きの声を上げていた。

同クラブは来年3月まで
県内の少年少女発明クラブは盛岡市以南の国道4号沿いで6クラブが活動している。クラブ間で年2回の交流会を開いており、震災後、県発明協会が大槌町の子どもたちを盛岡市の工場見学に招待したのが今回のクラブ発足につながった。

同協会の酒井俊巳専務理事は「クラブの活動を通して世界に発信するチャンスも生まれる。楽しみながら科学的な考え方を身に付け、地域の産業や復興を先導する大人になってほしい」と願う。
山崎洗平くん(田老一小5年)は「機械を使えるのが楽しみ。小さい車を作ってみた」と笑みを広げた。